



岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）  
試験研究課題評価票（概要）

<事後評価>

評価基準 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた 3：一定の成果が得られた  
2：見込んだ成果を下回った 1：成果が得られなかった

課題名	施業困難地における最適作業システム判定方法の確立				
総合評価	3. 7				
	5： ー 人	4： 4人	3： 2人	2： ー 人	1： ー 人
助言・指摘事項等	<p>1. ソフトウェアの開発まで実施できたことは、高く評価できる。作業道開設技術や作業システム選択については、間伐推進のためのキーポイントでありタイムリーな課題であるので、実施されたことは評価できる。</p> <p>今後、間伐等の木材搬出に伴う施業が中心となるが、森林組合職員等の森林施業プランナーの技術向上に貢献できるものと期待する。</p> <p>2. 各森林組合が普通に使えるように普及に努めていくことが重要で、普及のための努力を今後も続けること、特にシステムが利用しやすいようにマニュアル作成や指導等の充実が望まれる。また、実際に使用または研修を受けた普及員の反応が知りたい。</p> <p>3. 作成した判定プログラムの実用性、有効性に関する検証、すなわち労働生産性、造材歩留まりなどに関し、当該判定プログラムを用いた予想と、森林組合などの実測データを比較照合して問題を抽出したのち修正作業を行い、信頼性ある判定プログラムに改善する必要がある。</p> <p>4. ソフトは様々な場面で実際に使用して不具合な点を改良してはじめて有効なものになると思うので、是非そこまで遂行して欲しい。</p> <p>なお、作業道関係の課題については、開設・維持管理技術につながる報告も示された方が良かったと思われる。労働生産性の予測にとどまらず、搬出コストも予測できるソフト開発も、今後期待したい。</p>				

課題名	アカマツを利用した菌根性きのこの栽培				
総合評価	3. 3				
	5： ー 人	4： 2人	3： 4人	2： ー 人	1： ー 人
助言・指摘事項等	<p>1. 特許出願につながる技術を開発したことは高く評価できる。</p> <p>2. 林地への定着技術として、感染苗の大量生産が可能な「二段ポット苗木法」を開発しており、ホンシメジの味が入手できる可能性を感じた。</p> <p>3. マツタケについては、短期間で結果が出にくく、この分野の研究者が少ない等悪条件の中、今後は基礎データの蓄積が必須であると思う。</p> <p>4. アカマツに依存するマツタケ等の菌根性キノコ、特にマツタケ栽培は長年の県民の夢であり願望でもあり、早い段階での実現を期待したい。本件課題に当たっては、所の威信を懸け所内の研究のみならず、あらゆるデータ等を収集分析し極限まで取り組んでもらいたい。</p> <p>また、全体を通して、県内の報道機関にその成果等を発表し研究所の存在地位を高めてもらいたい。</p> <p>5. マツタケは、マツ枯れ対策がなければ、発生ピーク樹齢(15～45年生)のアカマツ本数が確保できないことが明らかであり、研究による技術開発だけでなく、技術応用のための総合的な計画が必要である。片手落ちとならないような、行政レベルでの推進をお願いしたい。</p> <p>6. 今後は、夏のキノコ、アイタケについても研究してほしい。</p>				